

# 東京桑野会会報

●2013年4月1日発行●発行・編集人 古川清●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804



No.35

《安積歴史博物館（旧本館）》

画：母校美術科 櫻村俊智（98期）



ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

本年は終戦後68年目に当たる。時計の針を逆に戻すと明治10年の西南戦争あたりになる。終戦までの戦争につぐ戦争の動乱の時代に比べると戦後の日本は平和の中で復興し繁榮してきた。ありがたいことだと思う。私の小学校時代はクラスの中にお父さんが戦死したという遺児が1人か2人は居たものだ。さて現在の日本の形はどうか。ジャパン・アズ・ナンバーワンともてはやされた時代はとうの昔になり、経済力も落ち国民は自信を失い、考え方も自虐的になっている。国の借金もGDPの二年分もあり先進国の中で最低の劣等生である。

一寸待ちなさい。一昨年の大震災の時東北人が示した「ガマン」と「秩序維持」は世界の称賛を浴びたで

はないか。地下鉄のエレベーターで「開」のボタンを押し続け皆が出てから最後に出る若者が居るではないか。公衆道徳は決して低くない。私は日本は立派に立ち直り一流国に留まると確信している。しかし何とかして欲しいものが一つある。それは教育である。資源のない、自然災害大国なのだから勝ち残るには「頭脳」と「努力」しかない。特に理数系の教育に重点をおいて欲しいと思う。発明・発見・技術が日本の生きる道であることは、今後も変わることはないはずだ。更にもう一つ。英語力の向上である。英語は今や国際コミュニケーション言語となっている。「アジアで一番英語が下手なのは日本人」との汚名は早々に返上したいものである。

# 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を次の通り開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2013年（平成25年）5月31日（金）
- 時 間 午後5時——受付開始  
午後6時——総会  
午後6時30分——懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件  
2. 予算決算の件  
3. その他
- 場 所 目白 椿山荘  
東京都文京区関口2-10-8  
(TEL 03-3943-1111)  
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 ¥8,000 東京桑野会年会費 ¥2,000  
(合計 ¥10,000)  
115期以降の若手会員は、懇親会費・年会費合計 ¥6,000  
学生は、懇親会費・年会費合計 ¥3,000

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されています。

総会当日にご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もごございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月20日（月）までにご返送下さいますようお願い申し上げます。

事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2012年6月1日（金）に開催され、来賓3名、一般会員129名、学生会員22名の総勢154名の参加があり盛況でした。

# 母校便り

☆母校は創立128周年を迎えました。128周年と言えば、128の期があるということ。どの期も“我が期が一番！”と思っているのじゃないでしょうか。そこで、平成24年度の在校生の126期、127期、128期の特徴を以下に。

☆126期（平成25年3月卒業）は8クラスで、担任の先生のうち女性が2名です。副担任も含めると女性は3名！私らの時は、女性の先生が全学年を通じて1名でした。い・ち・め・い・ですよ…。う～む、今の安高に学びたかった（でも男子校も面白かったがなあ）。3年生の時に学校祭がある学年は進学成績が悪い、というのが数ある安積のジクスの一つでしたが、さあ126期はどうか。でもこの126期、体育祭では3年2組が総合優勝ですよ！（2年6組と同点優勝）。受験学年が体育祭で優勝するなんてすごいよ。（ちなみに我が期も、3年生の時に学校祭があったが3年クラスが総合優勝するし、駅伝大会：今は無い、でも優勝しました！受験もその勢いで乗り切ったぞ、っと）。126期の皆さん、合格して東京に出てきたら東京桑野会に来てくださいね。

☆127期は8クラス中の担任の先生のうち、女性は3名です（女だ女だ、と言いつぎのキライがあるのは、男子校時代のOBの特徴だ…、共学化して10年以上も経つのに。スミマセン…）。

世界をもてなす、日本がある。



HOTEL 椿山荘 TOKYO  
CHINZANSO

「椿山荘」と「フォーシーズンズホテル椿山荘 東京」は、2013年1月1日より「ホテル椿山荘東京」に名称が変わりました。

〒112-8680 東京都文京区関口2-10-8 TEL: 03-3943-1111(代表) <http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/>

ああ俺も教わりたかった…。

☆128期は担任・副担任の先生のうち、女性は2名。女性の先生から見た、安積の伝統行事でどうなんでしょ。入学直後の学年通信では「対面式の時にスリッパを紛失する生徒が毎年います。記名を忘れずに」。この文を読んだだけでその画面が目浮かぶ貴方は、紛れもない安積OB・OGです。他高出身の先生方はどう思うのかな？

☆安積高校新聞の見出しから。『新入生に立ちはだかった応援歌練習』。うむ、この一行で、あの悪夢とそれが終了した後の達成感・解放感・安堵感を思い出す貴方は、紛れもない安積OB・OGです。ただ“伝統の応援歌練習”と言われるが、時代時代でだいぶ違うようですねえ。それが知りたかったら、東京桑野会広報部へ。

☆母校の部活の活躍は、学校長の佐藤先生からも報告がありましたように、我々OB・OGにとっても喜びですね。頑張れ安高生！

☆一番新しいOB・OGの125期生（平

成24年3月卒）は、大学受験で大奮闘しています。数年前までは卒業生は、東京・関東指向が強かったようですが、125期生の傾向としては、地元指向が少し強まり東北大・新潟大・福島大等の志望者が増えたようです。大震災も不景気も、いろいろありますからね。☆母校便りの最後に、安高PTAだよりの見出しから。『今も昔も血液は紫色（86期応援団長 別府正俊）』そうですね先輩。

## 会員消息

○逝去された方々のご冥福をお祈りいたします。（ ）は期、逝去された日。

遠藤 典夫氏(46期)(平成23年12月17日)

小針多喜男氏(51期)(平成23年5月1日)

伊藤 幸博氏(51期)(平成24年3月2日)

鈴木 正宣(旧姓大和田)氏(52期)

(平成24年3月19日)

吉田 尚氏(56期)(平成23年8月)

芳賀 功氏(57期)(平成23年9月)

志村 義夫氏(58期)(平成22年2月15日)  
石丸 隆(旧姓岡部)氏(59・60期)  
(平成23年7月1日)

菅野 一輔氏(59・60期)(平成22年5月)  
廣川 三男氏(59・60期)(平成22年)  
犀川 克郎氏(61期)(平成22年11月12日)  
古田 恒雄氏(61期)(平成21年10月5日)  
大内 孝明氏(64期)(平成23年8月25日)  
森田 和彦氏(64期)(平成23年5月3日)  
岩城 孝(旧姓七海)氏(64期)  
(平成24年3月18日)

安部 庄一氏(64期)(平成24年1月24日)  
鈴木 彰訓氏(65期)(平成20年9月11日)  
高田 嘉七氏(65期)(平成23年11月27日)  
高坂 匡氏(65期)(平成23年8月22日)  
松本 欣治氏(66期)(平成24年3月13日)  
橋本 順光氏(69期)(平成22年6月15日)  
小見 隆雄氏(70期)(平成23年1月15日)  
竹内 克巳氏(71期)(平成25年1月8日)  
鈴木 幸雄氏(72期)(平成24年3月3日)  
山口 宗之氏(73期)(平成23年9月27日)  
佐々木茂樹氏(74期)(平成21年12月27日)  
久保田隆之氏(74期)(平成21年)



### 安積桑野会の近況

安積桑野会会長  
山口 勇 (69期)

まだまだ寒い日が続きますが、東京桑野会の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

3.11東日本大震災及び原発事故から2年が経とうとしていますが、ふるさと郡山そして福島県は、復興に向けて日夜頑張っております。

母校安積高校の後輩も校長先生を中心に、勉学にスポーツに日々励んでおります。勉学の方では、125期生が昨

年度の大学入試において、30数年ぶりに東大に10名の合格者を出しました。今年度の結果はまだすべては出ていませんが、2月20日現在福島県立医科大学医学部医学科に推薦で7名の生徒が、自治医科大学医学科にも合格者が出ています。126期生も、必ずや昨年度以上の素晴らしい成績を挙げてくれるものと期待しております。

部活動では10もの部が全国大会に出場しました。その中でも合唱部は3年連続金賞を受賞し、銀閣寺での合唱奉納（7月19日）、原子力安全に関する福島閣僚会議（12月15日、ビッグパレットふくしま）及びふくしま大交流フェア（12月24日東京国際フォーラム）での演奏など引っ張りだこでした。さらに、ハンドボール女子が3月の全国選抜大会に、化学・生物・地学

の合同チームが科学の甲子園全国大会に出場を決めています。まさに、文武両道にふさわしい活躍だと思えます。

また、会員の皆様もご覧になったかと思いますが、昨年12月にNHKのEテレで放映された「東北発未来塾」に本校生9名が出演しました。本校96期卒のクリエイティブディレクターの箭内道彦さんを講師とした「箭内流広塾」の中で、ふくしまに対する思いを込めたCMを作成いたしました。第一線で活躍されている箭内氏にも何度も学校に足を運んでいただき、生徒はその中で目に見えて成長していく様子が伺えました。やはり安高は素晴らしいと改めて感じました。

安積歴史博物館の補修工事も順調に進んでおり、目標の平成26年8月には完成の予定です。また、同窓会を中

心とした補修のための寄付金も、各階層の協力を得て目標達成の見込みです。同窓生の皆様には、心から感謝申し上げます。完成まで、事務局とともに一丸となって努力してまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

母校も平成26年で創立130周年を迎えます。その第2回目の話し合いが、2月13日に開かれました。そこで、記念式典が平成26年9月6日(土)9時30分より本校第一体育館で、祝賀会が同日15時30分よりホテルハマツで開催されることが決まりました。

新しくなった旧本館とともに会員の皆さまと祝いたいと思います。

今後とも母校である安積高校及び後輩へのより一層の支援をお願い申し上げます。日頃からのご高配に感謝を申し上げます、東京桑野会の益々の発展をご祈念申し上げます。(平成25年2月記)



## ごあいさつ

安積高等学校長  
佐藤 馨

平成24年度は久しぶりの東大合格者二けた10名(現役は理科Ⅲ類1名を含む7名)という余韻さめやらぬ中で始まりました。そして、生徒達は内外で大いに活躍してくれました。

まず、「創立128周年紫旗祭」です。シンポジウムでは、本校OBの古川日出男氏と、みちのくボンカーズのオカンの基調講演の後、パネリストとして両氏に参加していただきました。非常に興味深いシンポジウムでした。特に、古川氏の母校と後輩達に対する熱い思いが伝わってきました。

仮装行列は、安積黎明高校前を経由したいということで、5km以上になってしまったコースを応援団を先頭に400名ほどが元気よく完歩しました。

吹奏楽部員は、長い時間演奏しながらの行進で大変だったのですが、沿道の人達はとても喜んでくれていました。

公開の日は、途中で雨が降ったりして、変化のある天気でしたが、お客さんも大勢来ていただいて楽しんでもらいました。各クラスや部活動の企画もなかなか見応えがありました。大進撃では、走り回っている生徒達はもとより、窓から顔を出して放歌高吟している者達も含めて、圧巻のエネルギーを放出していて、見ているもの全員に血湧く高揚感を与えてくれました。矢吹直哉実行委員長を中心として、実行委員と生徒会役員の連携も良くとれて、立派な紫旗祭が開催できました。

次に、部活動での活躍状況についてです。本校のホームページにも紹介していますが、簡単に紹介したいと思います。今年度全国大会に出場した運動部は、テニス部がインターハイとジュニアテニス選手権、ゴルフ部が全国高等学校ゴルフ選手権大会、ハンドボール部の女子1名が国体、ラグビー部の女子4名が全国高等学校女子7人制

大会、弓道部の男子1名が全国高等学校弓道選抜大会。文化部では合唱部が全日本合唱コンクール「3年連続金賞」、写真部の2名が全国高校総文、1名が全日本写真展「入選」、弦楽合奏部が全国高校総文、放送委員会が三部門でNHK杯全国高校放送コンテスト「優良賞1」、化学・生物・地学の連合チームが科学の甲子園全国大会、ハンドボール部女子が全国高校選抜大会。合計10の部と一連合チームが出場しました。その他、東北大会や県大会でも優勝や入賞の種目が沢山あります。是非ホームページで生徒達の活躍ぶりをご覧ください。

残すは、126期生の大学進学実績です。文武両道を達成して、平成24年度を有終の美で飾りたいものです。

東京桑野会の皆様には、この後輩達の成長と母校の発展のため、今後も変わらぬお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、東京桑野会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555

がんばらない自分と  
がんばる安積・福島

増子邦雄 (71期)

まず、自分の近況から話しましょう。2011年3月11日の東日本大震災直後に、私は大病を患いました。それは、我が人生で初めての全く想定外のことでした。がんです。ごく普通のガンでしたが、場所が悪かった。手術に11時間余り掛かりました。手術後は5日間集中治療室に入り、三途の川岸に立って黄泉の国を眺めて来ました。

ああ、死ぬという事はこんな事なのかという貴重な体験をしました。幸い、向こう岸には渡らずに戻って来ましたが、それ以来今までとは違ってがんばらない自分に変身することにしました。私も今年の4月で満74歳になります。もう十分に生きたような気がします。この病気で人間には寿命というものがあるのだ、とつくづく感じました。

あとは緩やかに、ゆったりと、あせらずに長生きしたいと思っています。

さて話は変わって、あの大震災とその直後に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我がふるさと福島県と200万県民に取り返しのできない大災害を齎しました。もちろん国と東京電力はその全ての責任を負わな

ければなりません、だからといって県民はただ唯々諾々としていれば良いと言うわけではありません。

自ら行動を興し自らの生活を立て直さなければなりません。他人に頼っている場合ではないのです。

昨年末、NHKTVで「東北発 未来塾 思いよ届け」という番組がありました。安積の卒業生でクリエイティブディレクターとして活躍している箭内道彦君(96期)が母校安積高校を訪れ、

後輩と一緒に「福島県を広告するためのCM」を作る番組でした。箭内君は大震災後、特に故郷を意識するようになったと、ある番組で語っていましたが、大変熱心に、真剣に生徒達を指導し、見事な広告を作り上げていました。

また彼は震災直後にバンドを結成し、福島県のPRに大いに貢献していた事は既にご存知の通りです。彼はいま、福島のために頑張っているのです。



《思索の森》画：櫻村俊智(98期)

がんばろう 福島!!

そば うどん 酒処

鞍手茶屋

昼はボリュームたっぷり  
ヘルシーな そば・うどん  
夜は品揃え豊富な  
東北の地酒で一杯

霞ヶ関店	〒100-6001	東京都千代田区霞ヶ関3-2-5	霞ヶ関ビル1F	☎03-3581-7066
大手町店	〒100-0004	東京都千代田区大手町1-1-3	大手センタービルB1	☎03-3213-2385
中山峠店	〒963-1304	福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠		☎024-984-3774 <店主>上野富衛(78期)

昨年の10月と11月、中学、高校（もちろん安積）、大学のクラス会を福島県の3つの温泉地で行いました。中学は首都圏在住者のクラス会で毎年1回の旅行を楽しんでいます。去年は福島支援のため福島県の温泉に行こうという事になりました。地元郡山からの参加もあり、総勢19名で土湯峠近くの秘湯、新野地温泉へ行きました。地元参加者の中には中学卒業以来57年振りに再会した友もおり、大いに盛り上がった事は言うまでもありません。また同期の佐藤栄佐久前知事も多忙の中、当日東京から帰って駆け参じてくれ、旧交を温めることが出来ました。

大学のクラス会は、クラスメイトがどうしても福島の温泉地でやろうと言いつし、大学でクラスメイトだった安積同期の満井紀勝君（郡山市在住）と相談して岳温泉行きとなりました。旅行の二日目は猪苗代湖へ出て野口英世記念館を訪れ、クラスメイト達は大いに福島県を再認識したようです。

わずか2ヶ月の間に福島の3つの温泉地を訪れたのは初めてですが、温泉地の人達は皆さん元気に頑張っており、福島の良さをつくづく感じたクラス会となりました。

昨年暮れには衆議院議員選挙があり、民主党から自民党へ政権が交代しましたが、わが安積の卒業生は前政権では、箭内君と同期（96期）の玄葉光一郎君が外務大臣として周辺諸国との間で難問を抱える我が国外交の舵取りをしっかりと担いました。政権交代後の自民党内閣では、根本 匠君（82期）が復興相に就任しました。

大震災と福島原発の過酷事故からの郷土の復旧・復興に大いに力を発揮することでしょう。また総理大臣のアドバイザーとなる内閣官房参与到宗像紀夫君（73期）が就任、これまでの法曹界での経験を大いに生かしたアドバイスを期待しています。

一方、下野した民主党の副代表に私の従弟の増子輝彦君（79期）が就任しました。主に福島復興を担当するようですが、わが福島の迅速な復興には与野党一致して事に当たる必要があります。

荒井広幸君（90期）や玄葉君も含めて、国政に参加している我が安積の卒業生には福島復興のため大いに頑張ってもらいましょう。

頑張れ安積！ 頑張れ福島！

（東京桑野会副会長）

## 政財界は科学的議論を —原発の安全性—

八巻俊憲（86期）

原発は、言うまでもなく人間の技術によって稼働される。原発の安全上最も必要なのは、平時の運営はもちろん、緊急時の判断と対処が科学的な事実認識に基づいて行われることであ

る。科学的に認識された事実を無視すれば、とんでもない結果につながることは誰にでも分かるはずだが、政治・経済界のリーダーたちは既存の経済体制に目を奪われ、科学を軽視した判断や主張を繰り返している。

筆者は高校で理科を教えている。「地学基礎」という科目では、日本が4枚のせめぎあうプレート上にあり、世界でもまれな地震列島であることや、今後起こるべき地震の可能性について詳しく学ぶ。福島第1原発事故後、東南海地震の危険性に対し最も警戒すべきだと言われてきた中部電力浜岡原発を停止したことは、このような基礎的な科学知識に照らして適切であった。この判断を経済的見地から批判する人たちは、高校レベルの科学的知識を無視していることになる。

2011年12月に福島第1原発の各原子炉が「冷温停止状態」に至ったと報道されたが、事故を起こした原発が平常の状態に戻ったわけではない。原発



《旧本館・修復中のバルコニー風景》画：榎村俊智（98期）

では、発生する膨大なエネルギーを制御できること、生成する放射性物質を完全に閉じ込めることが、科学的な前提だが、事故を起こした原発はどちらもできていない。

野田佳彦首相はこれを「事故の収束」と表現したが、一国の首相がこのように科学的に間違った認識に基づく声明を出すことも、それを指摘して訂正するように働き掛ける専門家がほとんどいないことも理解できない。

さらに首相は安全性の確立されていない関西電力の大飯原発を、政治的判断と称して再稼働させた。科学技術が安全性の決定要因であるべき原発について、科学的事実を無視した判断はあり得ない。

経団連や経済同友会のリーダーたちは放射能の絶対的な危険性に目をつぶり、電力供給という経済的な目的を優先させようとばかり考えている。福島では数基の原発の事故が計り知れない経済的損失をもたらしているにもかかわらず、同様のリスクを他の原発立地地域に負わせることにためらいを感じていないようだ。

原発立地地域と、その周辺自治体百万人単位の住民を愚弄するばかりでなく、現在も収束していない福島第1原発の危険を国中に拡大する行為だ。科学は、経験による実証性が大きな特徴である。未曾有の事故という経験によって実証された危険性を無視しては、科学の発展も記述の向上もなし得ない。

原子力には、核廃棄物の最終処分という、物理的に不可避のプロセスがあり、その具体化は差し迫った課題である。最終処分後の安全対策にも長い時間を要する。そのリスクとコストを未来の世代に押しつけることについて、現在のリーダーたちはいつ承認を得たのだろう。リスクを被るのは若い人たちをはじめとした未来の世代なのに、リスクをつくり出し出てきた世代で

ある現在のリーダーたちはあまりにも身勝手ではないか。

一度事故を起こしたら、処理だけで何十年かかるか分からず、原状回復も経済的保障も不可能となってしまうような不完全な技術に責任を持てるリーダーは存在しない。エネルギー政策や経済政策は、科学的実証性のある知見を基に議論され決定されなければならない。それが福島第1原発事故の最大の教訓だ。

(福島県立田村高校教員)

※) 本記事は、2012年8月29日(水)河北新報に掲載されました。

### 低線量の放射線の影響 について (平成24年度東京桑野会総会 特別講演)

野村貴美 (83期)

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故によって一般環境に甚大な放射能汚染をもたらしてしまった。原子力災害によって多かれ少なかれ、拡散した放射能が至る所で問題になっている。放射能への不安は、放射線の低い線量に対する理解が十分でないことも一因と考えられる。

放射線は、致死量の放射線に被曝しても五感に感じない。それだけに量を知らないままに被曝すると大変危険なものといえる。しかし、いまや簡単な検知器で致死量の一千万分の一(0.1マイクロシーベルト/毎時( $\mu\text{Sv/h}$ ))以下の非常に低いレベルの放射線でも容易に検知することができる状況にあり、防護の手段を考えることができる。

人体への影響は、高い線量の被曝で現れる急性影響と、被曝してから約5年から数十年後に現れる晩発性影響に分けられる。皮膚の紅斑や脱毛が起きるしきい線量は、3シーベルト(Sv)、

白血球が一時的減少するしきい線量は、0.25 Svである。それ以上で初めて影響が現れるのでこの影響を確定的影響と呼ぶ。がんや白血病は、しきい値がなく、被曝線量に伴い影響の生じる確率が増加すると考えられている。これを確率的影響と呼ぶ。

ここで、100ミリシーベルト(mSv)以下の低い線量の放射線による生物・人体への影響について紹介する。英国の放射線科医の発がん率が、被曝レベルを規制したら29%低くなった。放射線科医は20年間100mSvの線量を浴びていることから低線量の放射線による影響の研究が始まった。自然放射線のレベルが比較的高い中国江南省の陽江地区の住民(60年間330mSv)には、遺伝子の損傷が多く観察されるが、がん死亡率が25%低くなっていた。また、台湾では、あるビルの鉄筋コンクリートの一画にコバルトの線源が混入していたことがわかり、その後20年間400mSv被曝した、周りの住民の疫学的調査をした結果、がん発生率が他の地域よりも低くなっていた。ただ、このような放射線のホルミシス効果は、放射線防護の考え方には取り入れられていない。

分子生物学的には、放射線は遺伝子DNAに損傷を与えるが、その損傷は生物に備わった修復機能によって絶えず修復される。修復に失敗してもほとんどそれ自体が死滅し、正常細胞だけが残る。修復に失敗した場合に次の2つの過程がある。一つは修復能以上の損傷が生じたために未修復の損傷が残ることと、もう一つは誤って修復してしまうことである。前者の場合はDNA複製やタンパク合成ができなくなり、細胞は死滅する。また、損傷の残った細胞内では自殺を誘導するシグナルが活性化する。これが「アポトーシス」である。一方、後者の誤って修復した場合は、遺伝子の塩基配列に変化が生じる可能性がある。変化し

た塩基配列が細胞内で固定化されれば遺伝子の突然変異となる。ヒトを例として、体細胞に突然変異が起これば「がん」、生殖細胞に突然変異が起これば「遺伝的影響」になる。ただし、ヒトでは、遺伝的影響が確認されていない。一方、放射線をマイクロビームにしてある細胞に照射すると、その周囲の照射されていない細胞も応答することが認められる。これはバイスタンダー効果と呼ばれるが、これがガン化するかどうかかわからない。

日常生活では、2重らせん構造を持つDNAの一本鎖切断が一日一細胞あたり約5万個、2本鎖切断が約10個見つかる。それに対して100mSvの被ばくでは1本鎖切断が100個、2本鎖切断が約3個しか観察されない。しかし、確率的影響の考え方から言えば、3個の損傷であっても、影響の確率がゼロではないということになる。ただ、1mSvでは2本鎖切断は0.03個に相当し、ほとんどないに等しい。

疫学的には、200mSv以上の広島・長崎の原爆の急性被曝であれば、発がんのリスクは線量に依存して直線的に増加するという関係が認められてきたが、インドのケララ地方の住民のように慢性被曝の場合600mSvの被曝でも発がんリスクの増加は認められていない。生物の照射実験でも長期間にわたって被曝する慢性被曝の場合は、同じ線量でも急性被曝の約1/5程度の影響である。国際防護委員会(ICRP)は、慢性被曝の影響として急性被ばくの最大の1/2を採用している。これによると、固定がんの自然発生率30%に対して、生涯での放射線誘発がんによる死亡確率は100mSvで0.5%の増加と見積られている。

国立がん研究センターの調べでは、100mSvの発がんのリスクは、表1のように生活習慣によるリスク、たとえば運動不足に比べても十分に小さい。100mSv以下で発がんのリスクがあっ

たとしても、普段の生活を改善することの方が全体の発がんリスクを抑制する効果が大きく、がん予防には効果的であることが分かる。

表 がんになる要因と相対リスク  
(国立がん研究センター調べ)

要 因	がんになる リスク
1000～2000mSvの急性被曝	1.8倍
喫煙または毎日3合以上の飲酒習慣	1.6倍
痩せ過ぎ	1.29倍
肥満	1.22倍
200～500mSvの急性被曝	1.19倍
運動不足	1.15～1.19倍
塩分の摂り過ぎ	1.11～1.15倍
100～200mSvの急性被曝	1.08倍
野菜不足	1.06倍

なお、規制の基準値は、一般人に対して1mSv/年、職業人の基準は50mSv/年と異なって定められている。一般人であろうが職業人であろうが、人体に対する放射線の影響そのものは変わらない。なお、日本人は、自然界から平均2.1mSv/年、医療では2.25mSv/年の被曝を受けている。また皆さんが新聞等に見る放射線量は、単位がマイクロシーベルト毎時( $\mu$ Sv/h)であり、本文中に示されているミリシーベルト(mSv/年)に比較すると一千分の一の量である。

最後に福島県の早期復興を心から願う。  
(東京大学大学院工学研究科特任准教授  
編集部注)本文は、2012年6月1日(金)  
に東京桑野会定期総会後に実施された  
野村氏の講演内容をまとめたもの  
です。

## ふるさと福島、 郡山を想う

大矢真弘 (88期)

暮れに東京国際フォーラムで行われた震災復興の福島県物産展に行っ

てきた。懐かしい各地の名物やB級グルメ、福島県の書籍から観光案内、再就職案内等の催し物が行われており、安高合唱部やミス郡山の女性も登場したそうである。東京都は都民が福島県に宿泊する際の補助金交付なども実施しており、ありがたいものである。

「がんばっぺ福島」というメッセージを依頼され、何回か書いては消しを繰り返したが、所詮、離れたところにいる人の文章になってしまう。そういえば、沖縄の基地問題もアメリカの9・11も阪神淡路大震災も大変な事態であったが、テレビや新聞を通しての事件で、自分のこととしての想像力と感受性に欠けていたことと同じだ。

あれから2年近く過ぎた今も復旧とか復興が進んでいるとは言い難い。衆議院選挙では消費税増税・TPP・原発再稼働問題等が争点になっていた。自民党政権は金融政策、財政出動、成長戦略を3本の矢として、日本経済を運営するそうだ。国は外交も防衛も経済も様々な問題を抱えているし、福島県の問題は根本先輩の復興庁に期待している。

各地で問題となっている中間貯蔵所や汚染土壌、がれきの置き場の問題。仮設住宅での生活。帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除区域等の皆さんの現状は、マスコミを通じての情報しかなく、風評被害の実情も解決する必要があるとは思えない。時が解決してくれるのだろうか。

避難指示解除後も避難している県民が戻らず、町や村が消滅という事態を恐れるが、私が住んでいる東久留米にもいわき方面から避難してきた方々があり、東京は気候も環境も良いので、このまま住み続けたいと言っている。郡山に避難している方も同様に便利な都市の生活に慣れてきているようである。

仕事も無く、生活保護のように生きている仮設住宅等での生活を想像すると、真面目に地道に日々暮らしてきた福島県民には耐えられない日々だろ

う。その日その日の仕事を、家族のために懸命に頑張ってきた方々にとって、ある日突然仕事と家を無くし、仮設住宅や他県での生活を強いられ、働く意欲も能力もあるのに、生活保護のような生活をするということは、真面目な福島県民には耐えられない日々だと思ふ。誰かのためになるからこそその人生なのに。

私は祈りだけであるが、一人でも多くの方が、新しい土地で仕事を探し、自立した生活を取り戻し、各分野で立ち上がる人には立ち上がってほしい。そして、私のように何もしていない人には、福島県や自分の出身市町村へふるさと納税を勧めたい。また、いつ終わるかもわからない風評被害であるが、我々だけでも福島県の物を探しながら購入していきましょう。

(早稲田実業学校初等部)

## 佐藤栄佐久君の正論

塩谷哲夫 (71期)

原発の「安全」と「安心」との関係  
—「安心とは民主主義プロセスの保証によって、初めてもたらされる」(『福島原発の真実』(平凡社, 2011.6) —

私は、前福島県知事で政府・東京電力の原発推進策に抗って"退陣"に追い込まれた(と言われている)佐藤栄佐久君と、故郷、福島県郡山市の「郡山二中」、「県立安積高校」の同期生で、東大では、私が<理科二類~農学部>、彼は<文科一類~法学部>で学んだ。そんな仲間である。

栄佐久君は著書の中で次のように言っている；

[原子力安全・保安院は、「原発の“安心”は、科学の合理的な積み重ねで実現される」と主張をくりかえしてきた。私は違うと思う。「安心」は断じ

て「サイエンス」ではない。まして、県民の納得を得ようともせずにそれまでの安心基準を緩和した「維持基準」という「合理的な科学」は、不具合を隠すために使われているのではないかと疑われ、福島県民に「安心」は永遠に訪れない。では、「安心」とはどのようにして得られるのだろうか。それは、原発のデータや原子力政策のプロセスが透明化されて国民の目に見えるようになり、賛成、反対の意見を言い、知りたいデータを知らせてもらうことができる、民主的なプロセスの実現である。安心とは民主主義プロセスの保証によって、初めてもたらされる。]

“横書き”の「科学」を学び、技術研究・普及で暮らしてきた私は、“縦書き”の「文化」を学び、経済・政治の世界で暮らしてきた栄佐久君の述べる“正論”に教えられ、「科学(安全)」と「民心(安心)」との関係について“納得”した。

不法電波は  
やめましょう!

ATIS(自動識別装置)を  
必ず取り付けましょう!

技術と奉仕の無線機器部門  
ソフト開発と奉仕のコンピュータ機器部門  
ニーズに対応、奉仕の電話機器部門  
株式会社富士通ゼネラル通信特機特約店  
富士通テン株式会社特約店

# 株式会社 山口電機

www.yamaguhi-denki.co.jp

本社 宇都宮市宮の内2丁目184番地18  
水戸支店 水戸市中河内町67番地1  
さいたま支店 さいたま市三橋1丁目815番地  
東京支店 江戸川区春江町2丁目10番3号  
千葉支店 千葉市稲毛区六方町215番地22  
高崎支店 高崎市倉賀野町5319番地1  
会津若松支店 会津若松市一箕町八幡38番地11号  
横浜支店 横浜市青葉区元石川町3719番地8

TEL(028) 655-1600(代表)・FAX(028) 653-7817  
TEL(029) 227-2205(代表)・FAX(029) 227-2237  
TEL(048) 663-4000(代表)・FAX(048) 663-4274  
TEL(03) 3698-1600(代表)・FAX(03) 3698-1699  
TEL(043) 423-3000(代表)・FAX(043) 423-3503  
TEL(027) 346-4000(代表)・FAX(027) 346-4004  
TEL(0242) 23-1700(代表)・FAX(0242) 23-1701  
TEL(045) 921-5100(代表)・FAX(045) 921-5416

代表取締役 山口雄機 (74期)

なお、私は彼のこの本は自治体関係者にとってすぐれた教材だと思って、自治体関係者に勧めている。当初、福島県は「原子力発電は科学的に、安全です」と言うお上を信じ、その権威に黙らされてきた。国、県、市町村への上意下達の、どこでもそうであるような流れに従って。

しかし、東電や保安院の原発トラブル隠しに気づいて以来、佐藤栄佐久知

事は精力的に県行政をリードして行く。原発で発生する事態を「科学的」に究明する組織を育成し、県民が「安心」を納得し得るための民主的なプロセスを展開する。県職員がその過程で次第に力を備えて行く。県民が県を信頼してところを合わせて行く。その着実、かつダイナミックな過程に、私は感動した。そうか、行政が民衆に責任を持って、安全と安心を結びつける民

主的なプロセスをきちんと進めること。そこを譲ってはいけないのだ。その熟議の過程が民衆を鍛え、民主主義を成長させることになる。トップが“上意下達”したり、行政が“やってあげる”ことが善政ではない。

原発の再稼動をめぐる事態の展開を案じつつ―

(東京農工大学名誉教授)

## 地震と構造設計

斎藤 誠 (81期)

### ■地震について

日本は世界でも有数の地震国と云われており、世界中の1年間の総地震エネルギーの約10%が日本の国土およびその周辺海域で放出されている。日本列島、周辺には4つのプレート（北米プレート、太平洋プレート、ユーラシアプレート、フィリピンプレート）が

存在し、一昨年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」（プレート境界型地震）はマグニチュード9の大きさであり、宮城県栗原市では震度7が観測された。当地震のエネルギーの大きさは関東地震（1923年）の7.9、兵庫県南部地震（1995年）の7.3より大きく、1900年以降世界で発生した地震で4番目に大きい。地震による大規模な津波が発生し、多くの尊い命が奪われ公共施設や建築物を一瞬にして押し流してしまったのは記憶に新しい。

太平洋沿岸の埋め立て地や河川流域の砂層では大規模な液状化現象が発生した。長周期地震動の影響は震源地から遠く離れた東京のみならず、名古屋や大阪などでも観測され建築物の固有周期と共振した超高層建築物は、数分間に亘って大きな横揺れが観測された。

マグニチュードとはアメリカの地震学者のリヒター（1900～1985年）が考案した単位で、マグニチュードが0.2大きくなると約2倍、1大きくなると約32倍、2大きくなると約1,000倍エネルギーが大きくなる大きさを表す尺度である。関東地震のマグニチュードは7.9であったので今回発生した「東北地方太平洋沖地震」の地震の規模は関東地震の45倍以上の巨大地震であった。

日本列島には現在知られているだけで約2,000の活断層が存在し、活断層がずれて発生する地震や新たな断層の発生に伴う地震は「内陸型地震」、「直下型地震」と云われ、マグニチュードの大きさはプレート境界で発生する地震エネルギーより小さく、最大規模はマグニチュード8クラスと云われている。因みに一つの活断層がずれて地震が発生する確率は数千年から数万年に一度程度である。

### ■耐震設計に関わる法制度の変遷

1923（大正12）年の関東地震の翌



《朝河桜》画：櫻村俊智（98期）

1924（大正13）年に、世界に先駆けて市街地建築物に水平震度0.1以上とする規則が定められた。1950（昭和25）年には、建築基準法の改正が行われ水平震度も2倍の0.2以上と定められた。その後1968（昭和43）年の十勝沖地震による地震被害から、鉄筋コンクリート造の柱の帯筋間隔を従来の30cmから10cmに変更され、柱のせん断破壊防止策がとられた。

1978（昭和53）年の宮城沖地震を契機に、1981（昭和56）年に建築基準法の耐震規定が大幅に改定された。いわゆる新耐震設計法と云われるもので、この基準の耐震性の目標は、①稀に発生する地震動・・中地震（建物の耐用年数中に数度程度遭遇）に対して、建築物の構造耐力上主要な部分に損傷が生じない。②極めて稀に発生する地震動・・大地震（建物の耐用年数中に一度程度遭遇）に対しては、人命を確保するため建築物の倒壊、崩壊などが生じないという2段階を設定しており、現在もこの設計法を準拠して耐震設計が行われている。

1995（平成7）年1月17日に発生した兵庫県南部地震や昨年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の建築物の被害状況を見ると、1981（昭和56）年以前に建設された建築物には倒壊等の被害が多くあったが、新耐震設計法によって建設された建築物の被害はごく僅かであり、現行基準の耐震性の妥当性が立証されている。

#### ■構造設計の重要性について

建築物の構造は、台風や地震などの自然現象の脅威から建物そのものや人命を守る役割を担っており、地震国である日本ではその重要性が極めて大である。耐震偽装問題を契機に2009（平成21）年5月27日から一定規模の構造設計には高度な専門能力を必要とする「構造設計一級建築士」の関与が義務化された。

建築物の品質の確保は建築家だけで

はなく、それに携わる構造設計者によっても大きく変わり、事業主は信頼出来る設計事務所やゼネコンを選ぶ事が重要である。また、近年地震に対する耐震技術の発展も目を見張るものがあり、従来の耐震設計法に加え免震・制震の技術も選択肢の一つとして依頼する必要がある。

（株）エーエーアンドサン一級建築士事務所 取締役構造設計部長

### 朝河貫一顕彰協会のその後

矢吹 晋（70期）

旧臘17日付で発行された『顕彰協会会報』第39号の内容を紹介しつつ、協会の活動をご報告したい。朝河貫一は音楽についての才を示す記録は、これまでのところ発見されていないが、画才については、いくつかの記録がある。安積中学時代に描いた筆入れのデッサンは、安積歴史博物館の朝河コーナーに展示されていたので、ご覧

になった方も少なくないと思われる。もっと有名なのは、立子山の初代校長として赴任した父正澄とともに暮らした伊達郡立子山村（現福島市立子山）の天正寺本堂と棟続きの居間の外壁に残した馬6頭の落書きである。漆喰の壁に毛筆で残した貫一4歳当時の落書きは、疾走する奔馬の姿を鮮やかに描出している。幼児の落書きがそのまま残されてきたのは、歴代住職をはじめ、村人が正澄とその子貫一を敬愛してきたことの証左であろう。

しかしながら、2011年3月11日の大震災によって本堂は大きく傾き、改修が避けられない事態となった。そこで、解体前の見学会として、2012年10月21日に「天正寺を訪ねる小さな旅」が行なわれた。古川会長、三保恵一・二本松市長、小泉教育長らをはじめ、計40名が参加して、金色墓地の朝河貫一夫妻墓参、天正寺朝河家（姑ヤソ、母エヒ）墓参を含め、盛況のうちに終わった。旅の途中では立子山村が全国模範村として政府から表彰を受けた記録を残す朝倉鉄蔵翁顕彰碑を残



天正寺・朝河家墓参



不忘園

す「不忘園」も訪ねた。

さて本堂の解体、新築予算は1億3000万円であり、落書きを永久保存する別途工事費はガラスケース箱を含めて計70万円の見積もりが出ている。そこで顕彰協会としては、朝河基金から20万円を取り崩し、残りの50万円について広く募金を行うこととした。

そこで東京桑野会の諸兄姉にも、ご芳志を呼びかける次第である。受付先は、朝河貫一顕彰協会事務局正直義幸、960-9064福島市御倉町1-5FTVカルチャーセンター気付、電話024-521-1212である。

(朝河貫一顕彰協会代表理事、横浜市立大学名誉教授)

## 安積歴史博物館たより

村田英男 (75期)

### 1. 建物の修復工事

昨年の4月より建物の修復工事に入りました。一番の大仕事が左官工事です。本年は大変寒く、凍結が怖いので、冬季は休んでおります。壁塗りは六工程有りますが、最後の仕上げ漆喰をするばかりです。震災とは関係なかったのですが、足場を組んだ関係から以前からお願いしていた外部塗装の予算が付きませんでした。これも、9月には出来上がりそうです。

### 2. 修復工事に伴う資金調達

建物の修復経費はおおむね150百万

円。その96%が国、県、市の補助金です。これも国指定重要文化財であればこそです。4%に当たる約6百万円はOB企業から免税措置で調達いたしました。外部塗装は経費は概ね35百万円。31百万円が公的補助金、自己負担は4百万円弱が自己負担となります。

### 3. その他の工事

これらの工事を機会に今まで不足していた、トイレ、駐車場の新設、老朽化した非常階段の整備をする予定です。

### 4. 工事完成と内部の整備

建物の完成は25年9月、この時点で文化庁からの建物の引き渡しを受けます。講堂のホールとしての活用、ギャラリーでの絵画等の展示を以前にもまして考えております。内部の整備は崩壊以前の展示に準じて修復の予定ですが、予算の都合で26年9月で一区切りしたいと考えています。

### 5. 完成祝賀会

平成26年9月は創立130周年に当たります。そこに日程を合わせ、絵画展示、音楽イベントを開催しつつ、完成祝賀会を開催出来ればと考えています。

### 6. 公益法人化、資金調達

当初、本年の4月1日を目指しておりましたが、震災などで認可先が他の仕事も立て込んでいるとの理由から遅れてしまいました。公益法人化で無条件の免税寄付を受けられる事から寄付

をお待ちしている人も多数いる事から認可を急いでおりますがお待ちください。

### 7. 皆様からの篤志の報告

寄付を出した報告を貰っていないとのお叱りも頂いております。免税分を除き25年2月現在23百万円ご寄附頂いております。長きにわたり多数の人からのご厚意に返事を申し上げる事無く、大変済みません。26年9月の完成披露が一区切りとなりますのでもう少しお待ちください。

### 8. 蛇足 facebookの活用

私のこの原稿が東京桑野会の最終滑り込みのようでございますが、これでも皆様の目に触れるのは約40日後です。現在100期以降の若い世代は「安積桑野会facebook network」を活用いたしております。本日現在で830人の登録、しております。是非、登録をおねがいたします。

(磐梯熱海温泉紅葉館さらくや)

## ホームページの 運用状況報告

—創設10年目の活動と  
アクセス状況—

<http://www.tokyo-kuwano.com/>

芳賀雅美 (86期)

(東京桑野会ホームページ委員長)

まずは「ホームページ開設10周年記念頁」をご覧くださいませ

小濱 精吾 (58期)

株式会社 富士ハイエンジニアーズ  
一級建築士事務所

代表取締役 (管理建築士) 遠藤 修 (67期)

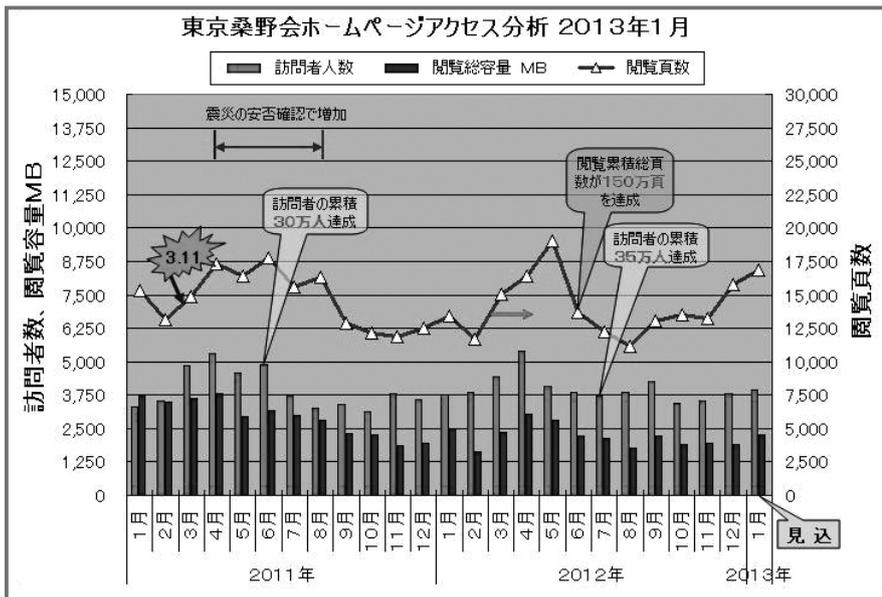
(一級建築士)  
(一級建築施工管理技士)  
(一級土木施工管理技士)

〒215-0015川崎市麻生区虹ヶ丘一丁目18番6号  
☎: 044-988-7387  
FAX: 044-988-7547  
E-mail: o-endou@river.ocn.ne.jp

株式会社開成プランニング

代表取締役 和田 正哉 (77期)  
(東京桑野会副会長)

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2  
勤務先電話: 03-3230-8001  
FAX: 03-3230-8550



東京桑野会ホームページへのアクセス状況

にあると断言できるでしょう。SNSのような新しい道具は使い易くて返信も楽だし、パソコンではなく携帯端末からも容易に扱えます。フルブラウザのごちゃごちゃした画面は見にくいし、携帯端末からでは操作がし難い。当会ホームページの設定は、デスクトップパソコンやA4ノートブックパソコンを主なユーザーとして想定しており、今となっては時代遅れとなっています。当会ホームページについても時代に乘った新しい方式で設計変更し、大幅なリニューアルを図りたいと常々考えていますが、新規技術を習得した若い世代の参加をお願いしたいところで

です。本題の当会ホームページ運営活動ですが、引き続きハード面では大きな障害やトラブルの発生はなく、昨年10月には3回目のサーバー機器交換を実施しました。安定的にホームページを提供できることがなによりも優先されます。また、掲示板のロボットによるスパム投稿も完全にブロックし、平穩無事に運用することができました。ご利用いただいた会員の皆様に、深く感謝を申し上げます。

この10年目についての、追加記事の掲載やイベント紹介頁の作成など改訂・追加コンテンツを記しておきます。まずは安積歴史博物館復興募金の案内頁です。安積高校ホームページや本家郡山の安積桑野会ホームページにさえも記事がなく、しかも安積歴史博

たでしょうか。当会ホームページが2003年にグランドオープンしてからこの3月1日で満10周年を迎えました。ホームページ立ち上げの原動力となった、2002年5月24日の「いわしや」事件の顛末も忘れ去られようとしているため、ここに再掲載しています。改めて当時の情熱を思い出すと共に、関係者の皆様にはご協力・ご支援いただきましたことに深く感謝致します。本当にご苦勞をおかけしました。

さて、会報でのホームページ便りも回を重ねてまいりましたが今回で10回目となります。10年前と比較するとインターネットの世界は様変わりしています。過去何度も繰り返して申し上げてきましたが、情報化技術はこの

10年で飛躍的に向上・変革し、人々の生活習慣やインターネットとの関わりも大きく変わりました。ネットの世界では初歩的なメーリングリストやブログの公開に始まり、今や世界的に流行のツイッター、フェイスブック、ミクシィといったSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）が常態化しています。モバイル向けゲームのグリーやモバゲーもSNSの仲間です。最近のホームページには、従来からのフルブラウザ型画面とこれらSNSを取り入れた、読者参加型の双方向通信が可能な構成になっているものが増えています。昨年も述べましたが、当会ホームページの掲示板に書き込みが少なくなってきている最大の理由はここ

古川 清 (63期)

安高は自分の心の拠りどころ

医療法人社団 松弘会 トワーム熊谷  
介護老人保健施設

施設長 渡辺 哲弥 (70期)  
医学博士

(練馬区東大泉7-14-15)

日本海運は若い皆様を  
待っています

大内 博文 (71期)

(一社) 海洋会副会長・横浜支部長  
〒231-0002横浜市中央区海岸通1-1  
☎045-201-7786

物館ホームページは震災で休止状態の中、当会ホームページにて昨年6月3日、真っ先に掲載し募金をお願いしました。震災に関わり会員ブログとして、「故郷復興への熱い思い」を3名のOBに語っていただきました。その他、恒例の親睦ゴルフ同好会記事、練習帆船日本丸カレンダー配布記事、さらに当会ホームページ開設10周年記念頁を制作しました。

さて、ここで当会ホームページへのアクセス状況について報告します。この原稿を書いている1月までの経過を過去2年間分のグラフで示しました（別掲の図を参照：今年1月は見込みの数値）。昨年6月17日にはのべ閲覧回数150万回を達成し、7月1日には累積訪問者数が35万人を突破しました。この1年間の平均で、月に訪問者4000人、閲覧回数14560回で推移しており、訪問者数は前年比でやや減、閲覧回数で前年とほぼ同等水準でした。前年2011年度は3・11震災直後ということもあり、通常よりアクセスが多かったと考えられますが、続く昨年2012年度もアクセスの低下は顕著には認められませんでした。

それでもアクセス数は相変わらず伸び悩んでおり、会員の皆様のご協力を賜りたく、切に望んでいます。

最後に毎年の決まり文句ですが、今後とも会員の皆様のご期待に沿えるよう、充実したページ作りに励みたいと考えています。重ねて当委員会への参

加または情報提供を広く会員諸兄にお願い致します。連絡先はホームページをご覧ください。

(出光興産(株)電子材料部)

## 父 長嶺力夫 —生涯—教師—

西澤（長嶺）真生  
安積女子高校35回（昭和58年）卒

父 長嶺力夫は昭和48年から退職までの18年間、さらに退職後も安積高校の教壇に立つことが出来ました。「生涯—教師」を旨として生きてきた父にとってはこれ以上ない喜びだったと思います。そんな父も間質性肺炎で7年前他界しました。今回思いがけず東京桑野会会報への寄稿のお話をいただきましたので、生前の話などを少しご紹介させていただくことにいたします。

父は温厚で争いが嫌いでしたが、曲げることのない信念を持っていました。父の教育の原点を知る上で次のようなエピソードが参考になるかもしれません。

父は終戦の直前に軍隊に行っていました。「皇国少年」としての教育を真つすぐ信じ弱冠14歳で少年志願兵になったのです。ところが現実に目にした軍隊は皇国軍の理想とはかけはなれたものでした。

上官 「太陽は西から昇るんだ。わ

かったか？」

上官 「言ってみろ、太陽はどちらから昇る？」

力夫 「太陽は東から昇ります」

上官 「バカ者！上官の言うことがきけないのか」

—殴られる

上官 「太陽はどちらから昇る？」

力夫 「太陽は西から昇ります」

上官 「バカ者、太陽は東から昇るに決まっているだろう」

—また殴られる

幸い、戦地に行くことなく終戦を迎え故郷に帰ることが出来ました。この出来事は軍隊とは理不尽なものであるという思いを強く与えました。教育の大切さを自覚し声高ではない平和運動を大事にしながら日々暮らしていたように思います。

郷里に戻ってから、木の切り出し、炭焼き、家の手伝いなど忙しく暮らしていたため最初は定時制高校への進学でした。成績がよいこともあり先生の勧めもあって何とか普通高校に転入することが出来た時には3歳下の弟と同じクラス、3年遅れでした。奨学金をもらいながら国学院大学へ進学。当時の国学院大学では民俗学の柳田國男氏や折口信夫氏、中野孝次氏、丸谷才一氏など日本を代表する学者が教鞭をとっており大学生生活は胸躍る体験でした。

大学を卒業し教員採用試験を受けます。筆記試験が終わり面接となり皆が

ごうや  
山田・合谷・鈴木法律事務所

弁護士 鈴木 修一（89期）

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園1番3号  
市政会館1階115号室  
TEL 03-3501-0451  
FAX 03-3501-0452

3月11日に『フクシマが見たチェルノブイリ  
26年目の真実』を出版しました

宗像 良保（78期）

〒142-0042東京都品川区4-19-26  
〒962-0854福島県須賀川市古屋敷11  
携帯090-2213-5778  
Mail: munachan66@gmail.com

新神田法律事務所

弁護士 上石 利男（80期）

〒101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町3-2  
サンミビル7階

TEL 03-3252-9671

FAX 03-3252-9673

5分ぐらいで出たり入ったりしている中、父の番が来て30分も出てきません。心配した友人たちが後からどうしたのか尋ねると面接官と大議論をしたというのです。面接官が「受けているのはこちらの試験だけですね」と念押しした時、要領のよい受験生なら「はい」と答えるものでしょう。ところが父は「あと〇〇も受けています」と答えた。面接官が「他を受けるような者は採用しない」と告げたので、曲ったことの嫌いな父は「このような就職難の時代に一つしか受けていない学生などいるわけがない。もし受けていないと言ったとしたらそれは嘘をついている。正直に答えた私がこのような扱いを受けるのは納得がいかない」と延々面接官と渡り合ったのだそうです。このようなやりとりがあったのもう採用はないと諦めていた父に、当時の須賀川高校の校長先生が病気でやめられる先生の代わりにと直々にお声をかけてくださったのです。父が福島県に赴任しなければ母と会うこともなく私共も生まれなかったのですから運命に感謝しなければなりませんね。考えてみればおおらかなよい時代でした。

旧制中学・高校に憧れを抱いていた父は安積高校赴任当時、弊衣破帽やパンカラ気質を自慢げに語り大変気に入っておりました。一教師として教壇に立ち続けたいというわがままを受け入れてくださった関係者の方々には本当に感謝しております。退職後も教え

子の方々との交流が続き大変幸福な人生でした。安積高校がさらに新しい伝統を築き卒業生の皆様にご活躍されることを願っております。

(ひめのともみクリニック 医師) 編集部注) 西澤氏は、安積女子高から東京大学医学部医学科卒。研究のかたわら診療と分子整合医学に従事されている。

## 放送部の思い出

### 石井俊一 (82期)

昭和42年に入学したとき、当時クラス担任の竹内先生から放送委員の指名を受けました。この竹内先生は、1年生の秋ごろ、突然、安高を退職されました。なお、大学に入学当初浅草の親戚の家に寄宿していたとき、浅草寺近くで、偶然お見かけしたのですが、お声をかけることは差し控えました。

話は戻りますが、記憶を繙きながら振り返ってみたいと思います。若干記憶が薄れている可能性があります。その辺は、ご容赦をお願いいたします。当時の放送室は、教員室の隣の会議室らしき部屋の片隅にあり、独立した部屋ではありませんでした。機材といっても校内放送用のコンソールが一つとテープレコーダが一台くらいあるだけでした。

私は、アナウンサー要員に指名され、NHK郡山放送局へ、アナウンサー

の訓練に行くように指示を受けました。放課後何日間か放送局へ通った記憶があります。当時、安女やほかの高校の放送部の方々も一緒でした。講師のNHKのアナウンサー、K氏という方からいろいろ教えていただきました(なぜかお名前を覚えております。)その訓練中の出来事で鮮明に記憶が残っていることは、どこかの女子高の方で、「留子(トメコ)」という名前の方がいらっしました。アナウンサー氏曰くには、「子沢山でもうこの辺で終わりという意味でつけられた名前です。」、なんてことを平然とおっしゃるもんですから、その子は赤面しますし、私たちも啞然としたことを覚えております。

1年生のころは、あまり活発でなかった放送部も、2年生あたりから段々活動しました。とくに、昼休みの時間に、何かやろうということになり、それまでの連絡事項の放送だけでなく企画として音楽を流したり、なにか楽しみになるディスクジョッキー的なことを考えようということになりました。部員の衆議は一決し、わくわくしながら企画に取り組みました。一番大切な、番組開始のテーマ曲には、当時男子校であったので、いろいろ考えた挙句というか、私が職権を濫用しましてワルトトイフェル作曲の円舞曲「女学生」の導入部をチョイスしました。いまでもそのメロディーは耳に焼き付いております。当時は、割と希望

### 株式会社櫻井淳計画工房

代表取締役 一級建築士

### 櫻井 淳 (78期)

〒231-0007

横浜市中区弁天通6-85宇徳ビル403

TEL: 045-663-9271

FAX: 045-663-9273

E-mail: spajun@bk.ij4u.or.jp

Web Site: <http://www.j-sakurai.jp/>

### 奮い立て我健男兒

### 大矢 真弘 (88期)

### 元航空幕僚長 軍事評論家

田母神事務所代表

### 田母神 俊雄 (80期)

〒156-0051

東京都世田谷区宮坂3-2-13-102

TEL 03-6413-0870

FAX 03-6413-6877

e-mail: tamogami@toshio-tamogami.jp

HP: <http://www.toshio-tamogami.jp>

すれば聞きたいレコードを購入していただくことができたのです。

その最初の放送が何時だったかは、すっかり忘れてしまいましたが、午前の授業が終了した後、いきなりテーマ曲をかけ、昼の放送を開始してしまいました。なにせあまり先生たちとも打ち合わせをしていたとは思えません状態でしたので、当初は、昼休みになんてことをするのだ？うるさい！という同級生からの詰問や教員室の先生からもなにやらお叱りを頂いた記憶があります。でも、しばらく続けるうちに、徐々に認知していただけたらしく、苦情等もなくなりました。

また、3年生のときですが、NHK主催の放送番組コンテストに出ようじゃないか？ということになり、放送部員全員が、知恵を絞りました。当時は、学生運動が華やかかなりし頃であり、多分に我が安高にもその影が忍び寄ってきている時期でした。タイトルは、その勢いで「学生の無関心」に決定しました。学生運動が盛んであり、高校生も多感なグループは、活発に動いていた時期でしたが、なぜか全然関心を示さない一群が存在していたので、興味をひかれたのです。大凡のシナリオを作り、おっとり刀で、慣れないインタビュー形式の取材を、何人かの生徒や、先生方からいただき、締切時間を意識しながらアナウンス原稿を作ったりの編集作業に入りました。当然、アナウンサー担当は、わたくしでありま

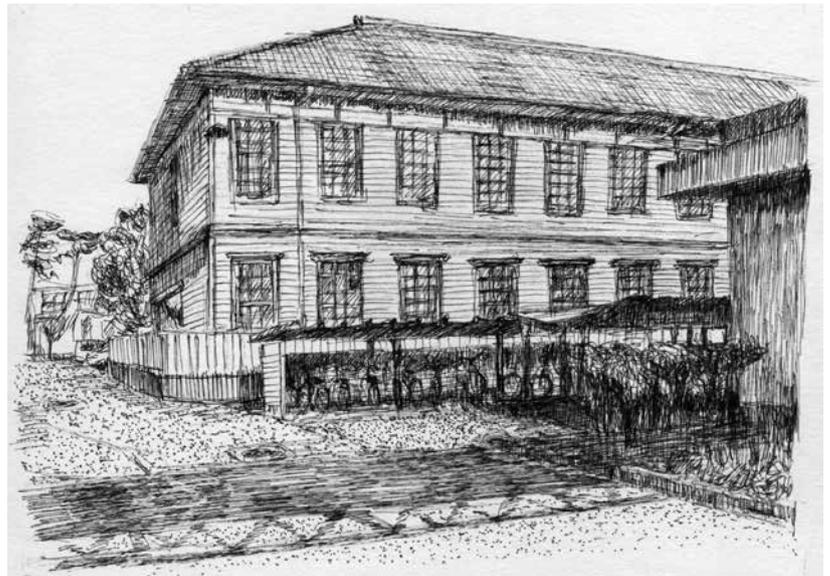
した。なにせ機材があまりよくないので、出来栄も、そんなにパツとしてものではなかったものの、初めて参加することもあり、自分たちのなかでは、かなり満足したことを覚えております。でも、バックグラウンドの音楽も挿入できず、なにやら編集する機械の雑音をそのまま利用するというお粗末な代物でした。兎に角、応募することに意義があるという感覚でした。

最近では、安高の放送部にはホームページもあるようで、その活動は、私

たちの時代と比較しますと隔世の感があります。機材も素晴らしいものがあり、いろいろなコンテストに上位入選している報告を頂いておりますが、情熱そのものは、当時の私たちも、今の部員にも負けないくらい持っております。

今後の安校放送部の益々のご活躍を祈念するとともに、当時の淡い思い出のお話をさせていただきました。

(司法書士)



《裏手から見た日本館》画：櫻村俊智（98期）

弁護士 後藤 大 (107期)

〒104-0061  
東京都中央区銀座4-10-16  
シグマ銀座ファーストビル2階  
堂野法律事務所  
TEL 03-3542-9031 FAX 03-3542-9030  
E-mail: d-gotoh@dohno-law.com  
URL: <http://www.dohno-law.com>

弁護士 斉藤 英彦 (69期)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番8号  
YKB新宿御苑804号室  
電話 (03) 3356-6677番  
FAX (03) 3356-6678番

### 協賛広告のお願い

東京桑野会会報は、三千数百部を発行し、母校・安積高校や福島県立図書館などにも納入されております。“安積卒業生の心意気”を協賛広告で示してみませんか。

お問い合わせは事務局まで。

## 平成 23 年度決算報告書

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

## 平成 24 年度予算案

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

		決 算 額	予 算 額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	257,642	257,642
	(2) 年会費収入	1,239,000	1,300,000
	(3) 総会費収入	1,096,000	1,100,000
	(4) 協賛広告料	300,000	300,000
	(5) 受取利息	46	400
	(6) 雑 収 入	65,320	50,000
	収入合計	2,958,008	3,008,042
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,068,150	1,150,000
	(2) 通 信 費	36,185	50,000
	(3) 会 議 費	0	20,000
	(4) 会報作成費	367,290	367,290
	(5) 会報発送費	335,689	335,689
	(6) 事務消耗品費	94,247	150,000
	(7) 母校後援費	0	100,000
	(8) 冠婚葬祭費	0	50,000
	(9) 支払手数料	46,415	50,000
	(10) 人 件 費	400,000	400,000
	(11) 交 通 費	700	50,000
	(12) 名簿編集費	20,000	20,000
	(13) ホームページ・広報部会運営費	24,360	50,000
	(14) 雑 費	0	100,000
	(15) 予 備 費	0	115,063
支出合計	2,393,036	3,008,042	
	次期繰越金	564,972	0
3 特別会計	事業準備積立金	1,366,538	
4 財産目録	(1) 普通預金 (三井住友銀行)		207,037
	(2) 定期預金 (三井住友銀行)		1,366,538
	(3) 郵便振替貯金		257,202
	(4) 現 金		100,733

		決 算 額	予 算 額
1 収入の部	(1) 前年度繰越金	564,972	564,972
	(2) 年会費収入	1,300,000	1,300,000
	(3) 総会費収入	1,100,000	1,100,000
	(4) 協賛広告料	260,000	260,000
	(5) 受取利息	400	400
	(6) 雑 収 入	50,000	50,000
	収入合計	3,275,372	3,275,372
2 支出の部	(1) 総会懇親会費	1,150,000	1,150,000
	(2) 通 信 費	50,000	50,000
	(3) 会 議 費	20,000	20,000
	(4) 会報作成費	367,290	367,290
	(5) 会報発送費	331,533	331,533
	(6) 事務消耗品費	150,000	150,000
	(7) 母校後援費	100,000	100,000
	(8) 冠婚葬祭費	50,000	50,000
	(9) 支払手数料	50,000	50,000
	(10) 人 件 費	400,000	400,000
	(11) 交 通 費	50,000	50,000
	(12) 名簿編集費	20,000	20,000
	(13) ホームページ・広報部会運営費	50,000	50,000
	(14) 雑 費	100,000	100,000
	(15) 予 備 費	386,549	386,549
支出合計	3,275,372	3,275,372	
	次期繰越金	0	0

※平成 23 年度決算および平成 24 年度予算は平成 24 年度総会において承認されております。

上記は監査の結果いずれも適正なものと認める。

平成 24 年 5 月 7 日

会計監査 大 内 博 文  
 会計監査 関 根 健 治

### 会費納入のお願い

東京桑野会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。会報の作成・送付も会費によって賄われています。現在、会報を送付している会員からの会費納入の達成率が低迷し、東京桑野会の財務が逼迫しつつあります。東京桑野会の健全な財務状態を維持するためにも会費納入をお願いいたします。(東京桑野会は安積桑野会とは別会計となっておりますことご承知ください)

# 東京桑野会役員名簿 平成 25 年 4 月 1 日現在

## □役員

役 職	氏 名	期	勤務先・自宅住所	電 話
会 長	古川 清	63		
会長代行 兼幹事長	斉藤 英彦	69		
副会長	増子 邦雄	71		
副会長	高松 豊	74		
副会長	浅川 章	76		
副会長	和田 正哉	77		
副会長	櫻井 淳	78		
副会長	上石 利男	80		
副会長	渡邊龍一郎	81		
副幹事長	椎野 靖啓	78		
副幹事長	宗像 良保	78		
副幹事長	丹治 則男	81		
副幹事長	小林 伸久	84		
副幹事長	村上 昌弘	85		
副幹事長	坂本 浩一	86		
副幹事長	芳賀 雅美	86		
副幹事長	渡辺 政信	88		
副幹事長	大矢 真弘	88		
副幹事長	鈴木 修一	89		
副幹事長	渡部 良朋	91		
会計監査	大内 博文	71		
会計監査	関根 健治	73		
顧 問	小浜 精吾	58		

## □幹事

役 職	氏 名	期	勤務先・自宅住所	電 話
幹 事	石川 衛三	57		
幹 事	池田 和男	58		
幹 事	佐藤 啓	61/62		
幹 事	村山 俊司	61/62		
幹 事	鶴沼 直雄	63		
幹 事	谷本 滋朗	63		
幹 事	渡部 喬一	64		
幹 事	本田 保夫	64		
幹 事	佐藤 司	64		
幹 事	伊藤 巖	65		
幹 事	堀江 敏夫	65		
幹 事	清治 和昭	66		
幹 事	橋本大三郎	66		
幹 事	横尾 稔	66		
幹 事	遠藤 修	67		
幹 事	青山 掌三	68		
幹 事	有我 政彦	68		
幹 事	清治 武光	68		
幹 事	佐藤 廣	69		
幹 事	石井 敬治	70		
幹 事	矢吹 晋	70		
幹 事	渡辺 哲弥	70		
幹 事	武藤 勇司	71		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	大和田允彦	71		
幹事	遠藤 宏司	72		
幹事	武藤 一駿	74		
幹事	伊豆 秀雄	74		
幹事	今川 直人	75		
幹事	柳田 力	75		
幹事	満井 和正	76		
幹事	草野 幸次	77		
幹事	大竹 英雄	79		
幹事	山元 紀美	79		
幹事	安部 直文	80		
幹事	斎藤 誠	81		
幹事	石井 俊一	82		
幹事	永山 幸男	82		
幹事	渡辺真佐夫	84		
幹事	境 君夫	85		
幹事	本田 宏	86		
幹事	坂路 誠	87		
幹事	富塚 弘之	87		
幹事	有我 明則	90		
幹事	秋山 茂雄	91		
幹事	田原 美郷	91		

役職	氏名	期	勤務先・自宅住所	電話
幹事	増子 浩重	92		
幹事	斎藤 宏海	93		
幹事	鎌田 光明	94		
幹事	藤田 健彦	96		
幹事	佐藤 厚	97		
幹事	小野崎 敦	97		
幹事	宗像 孝	98		
幹事	御代田邦英	100		
幹事	葛西 正輝	102		
幹事	小林 弘典	103		
幹事	佐藤 正典	103		
幹事	土田 隆弘	105		
幹事	加藤 祐一	105		
幹事	柳田 良幸	106		
幹事	後藤 大	107		
幹事	宗像 淳	107		
幹事	藤原 伸浩	111		
幹事	中館 透	113		
幹事	安孫子哲教	115		
幹事	星 瑞穂	117		
幹事	橋本 琢朗	121		

## 編集後記

○今回の挿絵は、母校美術科現職98期榎村俊智先生です。昨年末にお便りを差し上げ「卒業生が母校を思い起こす雰囲気絵をよろしく頼みます」と言う、お願いをしておきました。年が明けて、先生から、かなりアートを感じるお葉書を頂き、かなり小さな「挿絵の事了解」という文言を発見「良かった」と安堵。そこから先は、やや先輩ぶって、本年1月17日の事「今、安高のすぐ隣の開南幼稚園に来ています。12時15分頃、安高の正門に行きますから作品を預かりたいのですが…」と、一方的。「5点ほど出来ていますので、渡すことが出来ます」と。予定通りに正門前で、私を郡山駅まで送ってくれる同期の海南幼稚園長佐藤邦彦先生と一緒に榎村先生と初対面となりました。お互いに一言の自己紹介でしたが、不思議と旧知のような雰囲気、多くを語ることもなく「これから、よろしくネ」「こちらこそ。気をつけてお帰り下さい」「有難う、じゃあまたネ」。桑野会ここにありきの快い印象が残りました。(高松ゆたか)

○昨秋訪れたチェルノブイリの写真集『フクシマが見たチェルノブイリ26年目の真実』を出版しました。また写真展を81期の大森博君が経営する神楽坂の居酒屋「泥味亭」(tel03-3267-5844)で4月1日から5月31日まで開きます。原発事故で故郷を追われた人々の物語です。(宗像良保)

○横浜の事務所のデスクから、木下サーカスの大きな赤テントを見ながら編集後記を書いています。昔須賀川か郡山で見たことを思い出しながら、動物の檻の配置やテントの張り方等、手際の良さ等感心し、夜ともなると、ホワイトライオンの鳴き声が聞こえてきます。会報の原稿はやはり3.11に関するものが多く、斉藤さんの地震と構造設計の記事は我々設計するものとして、構造の重要性を知らしめてくれる良い文章でした。今年の大河ドラマは

NHKが舞台に福島県を入れて支援しようとい図していると、同志社大学の関係者から聞きました。水沢出身の片桐清治(私の曾祖父で新島襄の弟子)の一族は今年は大変盛り上がっています。(櫻井 淳)

○今年の大河ドラマは、会津藩が舞台の「八重の桜」。西郷頼母役の西田敏行は丸っきりの郡山弁。秋吉久美子は磐城弁。視聴者はみんな会津弁に聞こえるのだろうか。後の役者はへたくそで方言がなっていない。誰が言語指導したのかな。とは言っても我が福島県では、大河のおかげで観光客も増えているそうだ。なんと言っても主役の綾瀬はるかが良い。好感が持てるので視聴率もアップだろう。去年のマツケンとはえらい違いだ(笑)。若松城に磐梯山、猪苗代湖と子供のころに散々訪れた場所が、TV電波に乗って我が家のダイニングに映像が届く。今年行ってみよう。(がっちゃん)

○今回の特集は、昨号に続いてのPart IIといたしました。がんばっぺ福島、頑張っぺ安積。…頑張れ、俺。(GF91)

### 【書籍のお知らせ】

安積の大先輩である、朝河貫一博士に関する書籍について、塩谷哲夫東京農工大学名誉教授(71期)の文章を紹介いたします。【“日本がどこへ向かうべきか”の判断を迫られるとき<特に、日米中のせめぎ合いに関わって>、朝河博士の大きな愛国・正義の理念が、日本人が学ぶべきものとして甦ってクルのだと思います。皆さんご存知のことと思いますが、念のため、『日本の禍機』(講談社学術文庫版)の帯書を付記しておきます。「世界に孤立して国運を誤るなかれ―日露戦争後の祖国日本の動きを憂え、遠くアメリカからエール大学教授・朝河貫一が訴えかける。歴史学者としての明快な分析にたって、祖国への熱い思いが格調高く述べられ、読む者の心に迫る。彼の忠告も空しく、軍国主義への道を突き進んだ日本は、戦争、敗戦へと不幸な歴史を辿った。日米の迫間で、日本への

批判と進言を続けた朝河。彼の予見の確かさと祖国愛には、今なお学ぶべきものが多い―」。また、NHKドラマ『八重の桜』をご覧の方には、安高先輩・阿部善雄東大教授(1920-86)の『最後の「日本人」―朝河貫一の生涯』(岩波同時代ライブラリー版)がお奨めかな。―「薩長の大軍が『会津攻めよか仙台取るか、明日の朝飯は二本松』と豪語しながら、怒涛のように奥羽に押し寄せたとき、二本松少年隊の最後の叫びが7月の安達太良山にこだまし、…藩の砲術指南の家柄の貫一の父…」―で物語がはじまる。矢吹晋横浜市立大名名誉教授(70期)の書かれた『ポーツマスから消された男』(東信堂)―「日露興和交渉には一青年学徒の日中韓共生平和への情熱が反映されていた!いま甦る、先覚者の理念。」―が、竹島、尖閣をめぐる日中韓の問題を考える上でも参考になるかと思います。清水美和(東京新聞)の『「驕る日本」と闘った男』(講談社)―国家主義志向が国を誤らせる!―は読みやすいかな。】

【事務局からのお願い】会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されます。住所が変わっていると、折角の会報も戻ってきてしまいますので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さいますようお願い申し上げます(東京桑野会ホームページにも、連絡先を表示しております)。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

---

---

### 『東京桑野会会報』No.35

2013年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

斉藤法律事務所気付

Tel03-3356-6677 Fax03-3356-6678

E-mail info@tokyo-kuwano.com

URL <http://www.tokyo-kuwano.com/>

製 作●株式会社キタジマ

〒130-0023 東京都墨田区立川2-11-7

Tel03-3635-4510 Fax03-3635-4515

---

---